



第206号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会理事長 黒岩和博
 編集人 黒岩和博編集委員長 宮下芳一
 印刷所 須坂新聞社

「脚下を固め、教育改革への対応を」

上高井教育会理事長 黒岩和博



一、子ども
 のための教
 育改革に
 不登校・
 いじめ問題、
 学力低下、

それに加えて教師の不祥事な
 どが報道され、教育の再生が
 叫ばれ矢継ぎ早の教育改革が
 進められています。

教育再生のための七つの提
 言では、ゆとり教育を見直し
 学力の向上を第一とし、授業
 時数一割増、全国学力調査、
 学校選択制の導入の方向が示
 され、また魅力的で尊敬でき
 る教員を育てるために様々な
 分野から優れた人材を採用し、
 さらに教員免許更新制を取り
 上げています。そして、保護
 者や地域の信頼に応える学校
 にするために、第三者機関に
 よる外部評価、監査士、民間
 人を積極的に管理職に登用す

るとも述べられています。こ
 れらのことが、教育三法の改
 正や学習指導要領の改訂によ
 って、具体的に学校現場に下
 りようとしています。

このように急激で大がかり
 な制度改革の動きの中にあつ
 ても、教育現場をあずかる立
 場としては、制度そのものを
 学校における教育の問題とし
 て受け止めながら、日々の実
 践を通して真摯で率直な発信
 を大切に考えていきたいもの
 と思います。「花を育てる人
 は、一年先をみる」「木を育
 てる人は、十年先をみる」「人
 を育てる人は、百年先をみる」
 この言葉を改めて思い出して
 います。

二、「看脚下」に学び、

「不易」を求めて

このように外からの教育改
 革の波が強ければ強いほど、

私たちは自
 らを見失う
 ことなく、
 目の前にい
 る子どもを
 より大事に
 とらえるこ
 とを重要に
 考えていき
 たいもので
 す。

ある先輩の先生から便りを
 いただき、「看脚下」という
 言葉を知りました。自分の足
 もと、自分自身をみる。そし
 て目の前にいる子どもとの実
 践を通して現状をしっかりと把
 握していくことこそ肝要であ
 る。「子どもあつての教師で
 ある」との内容でした。

机上で「真実は何か」と探
 し求めるのではなく、事実を
 よく見て知ること、子どもと
 の実際のかかわりの中でこそ
 「真実」の追究が可能です。
 子どもの言動やその背後にあ
 る思いや願いが見えてきた時、
 自分の心の中にひらめきが起
 きてくる、つまり、直観が働
 いて何をどのようにしたいの
 かのヒントが明確につかめる
 ものと思っています。

このような時にこそ、本会
 の象徴「不易流行」の精神を
 生かして、私たちは自分の足
 もとをしつかり見つめながら、
 決して新しいことから逃れる
 ことなく、積極的に挑戦し、
 追究していききたいものと思
 います。

三、いまこそ教師としての
 力量を高めるとき

本会の特徴的な活動の一つ
 として全員参加による研究委
 員会があります。今年度は、
 新しい研究テーマ「確かな学
 力を育む授業の創造」を掲げ、
 中心講師として信州大学教育
 学部教授の益地憲一先生をお
 招きしての一年目の研究とな
 ります。会員からの要望が実
 現し、身近にご指導いただけ
 る先生を招聘することができ
 ました。教育会総会での講演
 と十一月に高山小学校で行わ
 れる国語の授業を通してご指
 導していただきます。

また、同好会は志を同じと
 する先生方の主体的・継続的
 な活動によって自己研鑽を図
 る絶好の機会となります。専
 門性をより深めたり広く知識
 を得たりすることはもちろん、
 多くの先生方との出会いを自
 分の財産にしてほしいと願っ
 ています。

教師力が問われている現在、
 「地域を知る」、「子どもを
 知る」ためにも、この地元の
 研鑽の場へぜひ積極的な参加
 をお願いいたします。

最後に、明るく元気に登校
 してくる子どもたちに負けな
 いような清明の心で、この大
 変な時期を乗り越えて、上高
 井教育向上のために前進して
 いきましよう。

(墨坂中)

教育会だより

- 4/2 選挙公示(役員選挙)
- 4/5 第1回代議員会
- 4/9 第3回選挙管理委員会
- 4/9 教育会役員選挙
(正副理事長、理事、監事)
- 4/11 第1回理事会
- 4/13 平成18年度会計監査会
- 4/17 第2回代議員会(信教常任、代議員
補欠員、補充員の承認)
- 4/25 第4回選挙管理委員会
第2回理事会
- 5/2 研究総委員会・同好会発足(須坂小
研究委員会・同好会世話係委員長・会長
上高井教育研究集會三団体発足会
新任教員歓迎会於ナガイホール
総会前日準備)
- 5/18 教育会通常定期総会・講演会
(於 須坂市文化会館メセナホール)
- 5/19 ○平成18年度会務報告並びに決算の承認
平成19年度事業計画並びに予算の承認
○会員意見発表 湯本明美 教諭(井上小
表題)「ここに笑顔、いい気分」
〈特別支援教育を楽しもう〉
- 5/22 ○講演講師 益地憲一先生(信州大教授
演題)「確かな学力を育む授業づくり」
- 6/2 郡研究推進委員会①
第121回信濃教育会総集會
(於 伊那文化会館)
- 6/6 上高井教育会より40名出席
- 6/12 第3回理事会
- 6/19 第3回代議員会
- 6/19 研究委員長会・研究企画委員会
(講師 益地憲一先生)
- 6/22 同好会②
- 7/7 郡研究推進委員会②
- 7/20 同好会③
- 上高井教育会会報第206号発行

「確かな学力を育む 授業の創造」に向けて

研究委員会会長 平林 博



教育会の第一の使命は、定款に示すように会員の職能向上に関する事業です。いうまでもなく研究委員会の活動はその中核をなすものです。上高井教育会の研究委員会は、教科および各領域の研究を十九の小中学校の会員が共同研究するという、他郡市の教育会にはない特徴を持っています。

研究委員会は、昭和三十六年、それまでの研究会という名称を研究委員会に改めて発足しました。昭和四十六年から中心講師を招き、今まで以上に会員が一体となった研究態勢が整いました。昭和四十五年度から五十五年度までの最初の中心講師は滝沢武久先生（東京電機大学）です。以下、歴代の中心講師は昭和五十一年から五十四年までは金井達三先生（横浜国大）、昭和五十五年から平成三年度までは三枝孝弘先生（名古屋大学、埼玉大学）、平成四年度から平成十三年度までは谷川彰英先生（筑波大学）、平成

十四年度から平成十八年度までは、田中統治先生（筑波大学）です。そして、本年度からは信州大学教授の益地憲一先生を中心講師としてお招きすることとなりました。地元の信州大学の先生であることから、五月の総会の講演の後、六月にも研究委員長や授業者が直接指導を受けています。

本年度の研究委員会の研究主題は、「確かな学力を育む授業の創造」という、どの委員会にとってもベースとなる研究主題です。

益地先生は、先の指導の中で「竹のような構造を持った授業でなければならぬ」と述べられています。すなわち、第一に「節目のある授業」。第二に「しなやかで弾力性のある授業、すなわち学習者の反応に応じて臨機応変な対応をはかる授業」。そして、第三に「教師主導と学習者中心の融合した授業」をあげられています。いずれも、どの教科、領域の授業でも大切にされなければならないことです。教師の力量そのものを示すものともいえるでしょう。すべ

ての委員会では、本年度は、このことを意識して研究を進めていただきたいと思います。

つい先頃、教育再生会議の報告書が公表され、新学習指導要領が年内にも告示されることが伝えられています。日本全体の学校教育が大きく変わろうとしている今ですが、子どもの姿を真摯にとらえ、一人一人の子どもが「学ぶ喜びを感じながら確かな学力を育んでいく授業づくり」に全力をつくしたいものです。

（小山小）

本校の中核活動

「自分の生き方を見つめて」

— 高山小学校 —



学校目標「ひとりだち」とも「そだち」の実現に向けた本校の中核活動の一つ目は清掃活動である。「やりがい清掃」と銘打



って、きれいになった喜び、ほめられる喜びを感じながら自分の仕事に自信と誇りを持ち、やりがいを感じられる清掃の時間を目指している。この目標を掲げて、全職員で一丸となり指導を始めて二年目に入った。

清掃はすべて音楽放送に沿って進んでいく。移動・黙想・片付け・反省という流れである。特に力を入れているのは、黙想の場面。ここがまさに

「ひとりだち」の時間。自分を見つめ、めあてを決め出す場面である。担任は児童と一緒に黙想に入り、子どもたちの様子をとりえ、その場に応じた的確に評価・やりがいを与えようとしている。二年目の現在、黙想の時間において全校が静まるようになり、自分を厳しく見つめ、めあてを的確にもって掃除に入れる子が増えてきている。掃除のしかたにも変化が出てきている。汚れを意識し、美しさを実感できる子が増えてきている。そうすることの良さを伝えていくこと、それが私たち教師の役目である。心を見つめ、めあてに向けて励む良さを伝えていきたい。それが「ひとりだち」につながるはずと考えている。

二つ目は、昨年までの二年間、文部科学省の指定を受けて取り組み本年度も継続して進めている「いのちを大切に」する心をはぐくむ教育である。子どもたちの暮らし地域に密着した教育を目指し、村全戸にアンケートをお願いしたり、地域題材の洗い出しをしたりして、実践に取り組んできた。一年生のアサガオ栽培や乳児健診での赤ちゃんとの交流（三年生）、デイスービスとの交流（四年生）、保育園の児童との交流（五年生）など、さまざまな人やものとの出会いを通して、いのちを見つめ、感じる事ができた。

そして、それらの体験と道徳や他教科の学習・特別活動などとのつながりを考え、六年間の系統性・重層性を持たせたカリキュラムの作成を行った。六年生では新生病院のホスピスとの交流を位置づけ、「与えられた大切ないのちを生かし、自分として納得できる生き方について考えることができる」ことを目標にしている。

昨年で研究指定は終わったが、本年度の学校グランドデザインを検討する中で、高山小学校で全ての教育活動を支えるベースとして「いのちを大切に」する心をはぐくむ教育を位置づけた。これからの子どもたちの心により響くいのちの学習を目指していきたいと考えている。

（池田大助・前田博展）

先輩方が求めたもの

同好会会長 久保田 博



同好会が、本教育会において正規の事業として組織的に位置づけたのは記録によると昭和十八年である。NHKテレビが本放送を開始した年である。

ところが、同好の士による研修活動はかなり以前から行われていたようである。昭和四年の教育会記録には、「音楽、体育、植物、図画の四講習会と、東大から講師を招いたのは記録によると昭和十八年である。NHKテレビが本放送を開始した年である。

また、その年の記録に、「同好会による講習会には各々五十円の補助あり」の記述がみえる。当時の五十円は、今のいくらになるのだろうか、昭和四年の物価を調べてみた。

一人一人が自ら拓く技術・家庭科の学習を目指して

技術・家庭科同好会 澁谷 和子

昨年度より、技術・家庭科同好会では、平成二十年に相森中学校で行われる「全日中・関プロ大会」に向けて準備・研究を進めています。本年度も、さらに研究を進め、「衣生活の自立」における題材開発や題材展開、指導方法などをより具体的に進めていきたいと考えています。

また本年度は上高井技術・家庭科研究委員会での活動と

連携しながら、授業公開及び授業研究会を行い、一層研究を深めていく予定です。現在、同好会員の多くが中学校技術・家庭科の教員であります。郡内の小学校を見渡すと、そのほとんどで家庭科は担任が指導しているようです。担任は児童の家庭生活の様子を十分把握しており、児童の実態に合わせた学習を進めることができるのではな

コーヒー一杯が十銭である。今、一杯を三百円とすると、およそ三百倍ということになる。とすれば、当時の五十円は今の一万五千円に当たる。本年度の同好会への補助金は、各四万五千円であるから、今の三分の一程度であったということになる。補助の有る無しに関わらず自己の向上に努めていた先輩方の姿がまたそこに映し出されてくる。

今、社会情勢が当時と大きく異なり、全てを一律に語ることはできないにしても、先輩方が汗をかくて求めたものだけは失いたくないものである。(小布施中)

いかと思います。しかし食生活では興味・関心をもっていた児童も、衣生活についての学習では、手縫いやミシン操作などにつまずき、作る楽しさを十分味わえずその辺りで苦勞されている先生方もおられるのではないのでしょうか。

本同好会では「衣生活の自立」に焦点を当てた研究を進めており、夏休みには実技講習会を予定しております。会員以外の方も参加してみたいかがでしょうか。是非一緒に「作る楽しさ」を実感し、互いの悩みを共有してみませんか。(墨坂中)

本校の宝⑤ 仁礼小学校

つながる心

本校には、実にたくさんの宝があります。

まず一つ目は、子どもたち。輝く瞳の持ち主たちです。言いたいことがうまく言えずにけんかをしたり、時には泣いたりしながらも、まっすぐに伸びようとしています。小さな生き物や花が大好きで、登校途中に見つけた小さな花を、メイン花壇にある芝では、毎年たくさん子どもたちが飛び回ったり転がったりして遊びますが、中心に咲いている花が、そのせいで折れたことは一度ありません。

二つ目は、自然環境です。校舎から南に広がる眺望は大変すばらしく、春には校庭の桜の向こうに柔らかな霞んだ山々の姿が望め、夏には真つ青な空と濃い緑の中にプールではしゃぐ子どもたちの声が吸い込まれていきます。

子どもたちが大好きな場所でもあるビオトープに流れ込む水も、近くの湧水からの恵です。子どもたちが、美しい四季の変化を感じながら生活できる自然環境は仁礼小の大切な宝です。

そして、三つ目は学校を支

えて下さる保護者の方々の「意気」です。昭和四十九年の県Pの新聞に、五年の歳月をかけて石ころだらけの校庭の整備を行った時の記事がありました。そこには、「毎年春の一日、ほとんど全員が出て近くの山から小型トラック三百台分の土砂を搬入し整地したこと」仁礼小のPTAは、子どもたちのためになることなら本気になってやるPTAであることが載っていました。仁礼小では、その記事から三十年以上たっている現在も、歴代のPTA会長さんたちが受け継いでいる「全ては子ども達のために」の合い言葉が、PTA活動の支えになつていきます。

この原稿を書きながら、今ある仁礼小学校の宝のすばらしさを再認識することができました。そして、この宝をさらに輝きあるものにし、これからさらに新しい宝を掘り起こし伝えていくことが、私たちの使命であることも、改めて考えることができました。

(滝澤 広子)



火ばら 談義



カット
日野小 島田和加子

スピードスケートから学んだこと

原 千 恵

私の出身は、川上村とい
ところ。川上村の標高は
一三〇〇で、夏は涼しく冬
は寒い。そんな川上村は、冬
に校庭に水を張ると校庭がス
ケートリンクに早変わりしま
す。冬の体育の授業といえ
校庭でスケートです。
気温マイナス10℃。競技服は
「ワンピース」という、薄い
伸縮性のよい服。手や足の指

は感覚がなくなるくらいか
かむ。膝を曲げての辛い姿勢
のまま、滑り続ける。現代人
が、こぞやってやりたいと思
スポーツではない。周りの人
から見れば、あのスポーツ本
当に楽しいのか？と思うでし
よう。実際に、わたしもやっ
ていて心がうきうきするよう
に楽しいと思ったことはほ
んどありません。練習も、半

端なく辛い。中でも一番辛
った練習は、「インターバル」
という陸上の練習で、校庭一
周二〇〇を全力で走り、一
分間休憩し、また校庭を一周
走り、これを20回繰り返す。
このときほど、監督が鬼に見
えたことはありませんでした。
しかし、この辛さに耐え、最
後ぶちぎりでゴールしたと
きの爽快感は何とも言えませ
ん。練習のおかげで私たちの
川上中学校は、全中で優勝を
果たすことができました。
辛くても続けることは、何
らかの形で自分に返ってくる
ということをこの経験から学
びました。この経験をこれか
らの教師生活に生かしてい
たいと思います。(栗方丘小)

アメリカの中学生

小 山 聖 子

二年間ほどアメリカで生活
する機会に恵まれました。ア
メリカの学校に興味があり、見
させていただきました。「アメ
リカの中学生ってすごくは
な格好をしているんだろ
うな？」と思っ行ってみると、
「腰パンもいっぱいいるのか
な？」と思っ行ってみると、
ちよつとびっくり。制服がない
ので、Tシャツにジーパンとい
うラフな格好ですがさっぱり
しています。

人もいません。聞いてみると、
中学校の服装チェックはすこ
く厳しいそうです。穴の開いた
ジーンズをはいてきてはいけ
ない、下着が見えてはいけな
い女の子は大人の指二本より細
い肩ひものタンクトップを着
てきてはいけない、などのきま
りがあります。決まりをやぶつ
た服を着てくるとジャージに
着替えさせられます。自分のジ
ャージでなく、学校に常備して
あるものなのでボロボロ。洗濯

もしていないので臭い(絶対着
たくないそうです)不注意であ
けてしまった穴が見つかった
も着替えさせられるので、毎朝
ジーンズをよくチェックし
てでかけるそうです。
部活動がないとか、夏休みが
三ヶ月あるとか、十三歳からベ
ーシッターのアルバイトが
できるとか、日本と違うところ
がたくさんあります。日本から
親の都合でアメリカの中学校
に転校した子どもたちは日本
に「帰りたい」派と「帰りたい
くない」派にしっかり分かれる
そうです。(墨坂中)

編集後記

平成十九年度最初の会報を
お届けすることができました。
お忙しい中、玉稿を寄せて頂
いた皆様に、心より感謝を申し
上げます。

本年度も、会報発行は年二回、
次の委員でお届けします。

委員長
副委員長
委員

宮下 芳一(豊洲小)
竹前 傳藏(小布施中)
桂本 和弘(小山小)
米山 修一(井上小)
下川 光子(仁礼小)
中沢 裕子(豊丘小)
中村 文成(小布施中)
宮下 由美(常盤中)

平成19年度 県 外 視 察 者 名 簿 (敬称略) 上高井教育会					
	学校名	氏 名	視 察 目 的	視察方面	実施時期
1	栗ガ丘小	鶴田 恵市	市全体で英語活動に取り組んでいる成田市の様子	千葉県成田市	2学期中
2	高山小	久保田啓一	確かな学力形成、高い倫理観と自立心を養う教育	京都市立命館小	11月22日
3	須坂小	宮川まゆみ	地域との関わりから学ぶ家庭科学学習のあり方	千葉県	11月
4	小山小	阿部 哲	児童生徒の鑑賞教室向け美術作品の探索	東京方面	8月
5	"	桂本 和弘	算数の基礎的な力をつける指導のあり方	東京方面	2学期中
6	森上小	矢野 司	先進的な「総合的な学習の時間」の実践に学ぶ	東京方面	11月頃
7	日滝小	越 浩一	第66回エネルギー教育シンポジウム エネルギーの教材化教材の展示など	東京大田区	6月10日
8	豊洲小	関谷 敏	小学校における英語活動の現状	埼玉県	11月頃
9	日野小	牛丸 光恵	人もの自然との関わりを深めながら、自らの願いを追究し続ける生活科の創造	上越教育大附属小	6月28日
10	"	宮下 正己	美術教育から「学び」の変革を！～教育の中での美術の役割～	東京(青山学院大)	8月9～10日
11	井上小	竹前和子・福田将太	児童が主体的に学び深める指導法	茅ヶ崎市立浜之郷小	11月9日
12	高甫小	宮寄 秀文	総合的学習の手法を用いた教科学習へのアプローチと基礎学力の保障	富山県堀川小	5月29・30日
13	旭ヶ丘小	井口有紀子	第70回国語教育研究大会 ～現代の国語教育～	東京方面	8月8～9日
14	小布施中	北川原理恵	合唱指導・発声練習吹奏楽指導・日々の基礎訓練	東京方面	10月
15	高山中	向山 香	豊かな心を育てる教育活動(教科指導)のあり方	愛知県岡崎市立東海中	6月22日
16	常盤中	宮下 由美	特色ある学校図書館運営の視察	神奈川・東京	6月か10月
17	"	小川 洋史	新設私立小中学校の現状、教育課程	山 梨 県	8月上旬
18	相森中	今井 一弘	職場体験の先進的な取り組み	富 山 県	10月
19	墨坂中	澁谷 和子	学習した知識や技術を自己の生活に生かしていく技術家庭科指導のあり方	新潟方面	10月下旬
20	東 中	小林 和子	東京都の学習塾における学習の現状	東 京	7月末頃